

第五十四回

東大社式年大神幸祭

平成二十二年四月十日(土)～十二日(月)
 足揃え 四月四日(日)
 笠崩し 四月十七日(土)

東庄町観光協会

康和四年(一一〇二年)堀河天皇の時代、銚子高見浦に大津波が起こり、海が荒れに荒れ海難が長く続いた。海神の怒りを和らげるようにとの朝廷の宣旨により、東大社、雷神社、豊玉姫神社の三社の御神幸が行われると：
 たちまち海上は浪静まり、日輪は再び輝き、大漁、大豊作になったと伝えられる。

今回の御神幸は四月十日(土)早朝六時、朝もやの中出御、銚子市小舟木の神逢塚で豊玉姫神社、雷神社の御神輿と合流し、^{ミロクサンバソウ}弥勒三番叟が三社の総露払いとして先導します。東大社のお供として氏子の里々が古式豊かな大名行列、^{タイリョウウガンククリウ}頼朝公富士の巻狩り、下座、手踊り、大漁丸薬売り等多彩な芸能が供奉して、途中銚子市内各所に設定された関所で芸能を披露しながら銚子街道を高神へ向かいます。翌十一日には外川の浦でのお潮汲みの祭典、昔からの行事が厳粛に執り行われ、最終日の十二日には銚港神社から白幡神社までの荘厳華麗な三社の神輿パレードが行われます。

式年大神幸とは、一定の年毎に行われる大神幸ということで、東大社の場合は二十年毎に行われ、昔から銚子地方では「オ、ジンサマのオ、ミユキを何回拝むことが出来た」と長生きの尺度として御神幸を待ち望んでいました。
 春らんまんの銚子街道を一路外川浦へ向かう、その雅やかな時代絵巻は、まさに全国屈指の大神幸祭と称されます。

